

# 西諸県地域の普及活動

令和8年2月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 農業改良普及事業推進協議会幹事会と農業経営指導士会の合同による普及活動実績及び次年度計画(案)検討会を開催

18日に、普及センターで開催されたこの検討会では、令和7年度の普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題、専門プロジェクト5課題の実績を中心に報告し、令和8年度地域基本計画(案)の4つ重点的施策についても説明を行いました。

参加者からは、オペレーターの意向調査の情報共有やセリ前講習の継続、果樹に対する高温対策や降灰対策などの要望が出されました。

今回の検討内容やいただいたご意見を参考に、今後の活動に反映していく予定です。



【説明後の質問等をする出席者】

### 2) 2月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和8年2月期子牛郡品評会が開催されました。

2月14日から16日に開催される2月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た48頭が出品され、審査の結果、優等賞に9頭、壺等賞に22頭、式等賞に17頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の永久井幹男さん出品の「りん186」号(父:桃白鵬)、2席はえびの市の中原安尋さん出品の「ももみ」号(父:桃白鵬)、3席は高原町の石山利文さん出品の「ていと29」号(父:勝美利)が受賞されました。受賞牛は、発育良好、体積豊かで、輪郭鮮明との講評でした。



【優等賞首席「りん186」】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、  
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。  
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

## Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

#### 1) 新規就農者育成総合対策経営開始資金(旧:農業次世代人材投資資金)活用者の就農状況等の確認

16日及び24日に、えびの市で経営開始資金等を受給する4名の新規就農者等に対して、就農状況の確認が行われました。

就農状況の確認は、受給者ごとに個別に行われ、過去に認定された青年等就農計画の目標値に対する達成状況と現在の課題と対応策の確認・提案が行われた後、それぞれの圃場での作付状況の確認が行われました。今回の確認状況を踏まえながら、普及センターとしても引き続き、新規就農者に必要とされる経営管理や生産技術等の支援を行っていく予定です。



【関係機関による圃場確認】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

#### 1) 令和8年産大麦の巡回による生育状況確認

24日に、えびの市において、大麦の生育状況の確認を行いました。この大麦は、地元の酒造会社で使われるものです。

現在、分けつ期～幼穂形成期を迎えていますが、2月の気温は高めに推移し、降水量が平年より少なかったため湿害等の影響もなく、順調に生育しています。

今後も除草対策や排水対策指導を行い、収量・品質が確保できるよう定期的な巡回を行っていきたいと思います。



【分けつ期の大麦】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

#### 1) ほうれんそう定点調査を実施

4日及び18日に、小林市野尻町とえびの市の畑でほうれんそうの定点調査を行いました。定点調査は、県内の主要産地で同時に行っており、地域ごとの生育状況や生理障害を共有し、安定生産につなげるためのものです。今回の調査では、予想よりも生育が遅延している傾向にありました。なお、今後の気温の上昇・降雨によっては、急激に生育することも予想されます。

#### 2) JAこばやし里芋生産部会が栽培講習会を実施

12日に、JAこばやし里芋生産部会が栽培講習会を実施し、6名が参加しました。普及センターから、さといも疫病対策とネグサレセンチュウ対策の基礎を説明しました。昨年は、ネグサレセンチュウの被害が大きい圃場もあったため、生産者からは、種いもや圃場の消毒について熱心に質問がありました。



【講習会の様子】

## (魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

### 1) セリ前講習会の実施

14～16日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開催前に講習会を行いました。今月の講習会では、普及センターから「分娩間隔の短縮」を、また都城家畜保健衛生所から「アルボウイルス感染症～病気の特徴と昆虫対策～」をテーマに講習会を行い、延べ140名程度の参加がありました。

参加者からは、飼料設計に関する質問が寄せられ、当講習会を通して繁殖ステージに応じた給与量について認識を深めるきっかけとなったようでした。

今後も継続して、基本技術の紹介を行っていきます。



【講習会に参加する農業者】

## (スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

### 1) JAえびの市いちご新規就農者支援

9日に、JAえびの市のいちご新規就農者ほ場の個別巡回指導を実施しました。今回の巡回には、JA営農指導員と普及センターの品目担当、担い手担当が参加し、栽培指導や経営状況の確認を行いました。生産者からは「重点的な支援はありがたい」との意見があり、今後も支援を行うこととなりました。

いちごは今最盛期を迎えていますので、新規就農者が収量を上げられるよう引き続き技術支援等を行っていきます。



【栽培指導を行う普及指導員】

### 2) JAこばやし促成きゅうりほ場巡回

18日に、JAこばやし管内にて、促成きゅうりほ場巡回を実施しました。月に1回程度実施するこの巡回では、JAと普及センター、種苗メーカー等が参加し、1日で8戸のほ場を巡回しながら栽培指導を行いました。今回の巡回では、品種の特性に合わせたかん水管理や夜温の設定など高度な技術の指導を行ったところ、生産者はすぐに実践してみたいとお話をされていました。

3月に入ると気温も高く、日照時間も長くなっていきますので、それに合わせたかん水や肥培管理の指導を今後行っていきます。



【生産者との意見交換】

## (魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

### 1) 令和7年度ぶどう若手生産者グループ交流会

26日に、普及センターで標記交流会が開催され、ぐれ〜ぷ11名、尾鈴ぶどう部会 Osuzu Vines (おすずバインズ) 11名、試験場3名、普及センター2名が参加しました。普及センターから着色向上試験の展示ほ結果報告、試験場から樹液流についての研究内容紹介を行った後、生産者の園地へ移動し、萌芽状況の確認と意見交換を行いました。参加者のアンケートには「アブサップ液剤(着色促進剤)の効果が分かり参考になった」「樹液流の話が良かった」等の意見がありました。

今後も、産地間の交流を通じて、生産者の技術向上を支援していきます。



【試験場の研究紹介を聞く参加者】

## (西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

### 1) JAこぼやし花卉部会の定例会が開催

12日に、小林市管内においてほ場巡回及び定例会が開催され、生産者3名と関係機関5名が参加しました。

ほ場巡回では、生育も順調で目立った病虫害の発生等が無いことが確認できました。また、巡回後の定例会では、JAから情勢報告や春彼岸に向けた出荷予定等について説明があり、その後、普及センターからは、2月以降の栽培管理について換気や防除等のポイントや土壌診断に基づいた施肥について説明しました。参加者からは、土作りが重要なのでしっかり行いたいといった意見が出ました。



【キクの生育を確認する様子】

## (20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

### 1) 令和7年度 茶関係組織の総会が開催

18日に、西諸茶業青年会、20日に西諸県地区茶業振興協議会の総会が小林市内で開催され、生産者や関係機関担当者が出席しました。

各総会では、令和7年度事業実績及び収支決算や来年度以降の役員体制、連絡体制等が協議され、全ての議案が承認されました。

今後も生産者と関係機関が協力し、高品質茶生産に向けた支援を行います。

## 2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

### 1) JAえびの市夏秋ピーマン栽培講習会

4日に、JAえびの市にて、標記講習会が開催されました。普及センターからは、当地域で発生が多いうどんこ病の防除技術や、害虫対策のための天敵利用方法、高温対策技術について説明しました。生産者からは、高温対策のコツや天敵の放飼タイミングなど質問がありました。

3月から定植が始まりますので、今後は個別巡回の中で栽培指導を行っていきます。

## 2) 営農振興協議会野菜部会県外視察（熊本県）

24日と25日に、熊本県にて、標記視察を行い、農林振興局や農業改良普及センター、市役所、JAの職員が参加しました。この視察は、県外の施設野菜及び露地野菜に関する栽培・選果・流通の取組を視察し、関係機関の知見向上と連携強化を図ることを目的としています。

視察先の青果店では露地野菜の流通について学び、メロン・いちごの生産ほ場では、かん水管理や肥培管理について学ぶことができました。また、今回の視察を通して関係機関の連携がより強まったと考えています。この連携強化を地域の課題解決に活かしていきます。

## 3) 美郷町シキミ部会のJAこばやしマンゴー部会視察対応

5日に、JAこばやし三ヶ野山出張所にて、美郷町シキミ部会によるJAこばやしマンゴー部会の第三者承継の取組についての視察があり、シキミ部会7名、マンゴー部会3名、関係機関10名が参加しました。

普及センターから、JAこばやしマンゴー部会の承継の取組について説明した後、意見交換を行いました。先方からは、シキミ部会の現状について話した後「承継する場合の価格の設定はどうするのか」「実態把握にあたり何をしたのか」等の複数の質問がされ、マンゴー部会も現状を交えながら回答していました。

マンゴー部会の承継体制の取り組みは、まだ始まったばかりですが、担い手確保に必要な取り組みになりますので、引き続き関係機関と連携して支援していきます。



【取組の流れを聞く参加者】

## 4) 「みやざき花の祭典2026」に西諸県管内の花きが出展

1月31日から2月1日にかけてイオンモール宮崎にて開催され、県内全域から約220点が出展されました。西諸県地域からは6名の生産者が、選りすぐりのキクやラナンキュラス、デルフィニウムなど合計10点を出展しました。訪れた来場者は出展された色とりどりの花に魅入っており、県産花きのPRにつながったと想います。

また、祭典では花き市場による模擬セリや出展した花の即売会など様々なイベントが催され盛況でした。



【展示会の様子】

## 5) 営農振興協議会特用作部会技術員会を実施

24日に、技術員会を開催し、今後の活動計画の確認や、次年度の展示ほを検討しました。展示ほは、茶の農薬資材、かんしょの白黒マルチ資材等の試験を実施します。

特用作部会は、茶・薬草・原料用かんしょを中心に活動しており、茶の情勢や、ミシマサイコの新規生産者の確保、かんしょの病害虫対策等について情報交換しました。

今後、技術員会による巡回や展示ほの調査を密に行っていきます。



【特用作部会の協議の様子】

## 6) 西諸県地区花き技術員会第6回定例会が開催

18日に、高原町役場にて第6回定例会を開催し、関係機関9名が参加しました。

管内で生産される花きの生育状況等についての情報交換や、県外先進地視察研修などについて協議しました。また、室内検討後、町内のラナンキュラス生産者を訪問して生育状況について意見交換し、順調な生産状況などを確認しました。

今後も関係機関や農家と情報交換を密に行うことで、技術員会の活発な活動につなげるとともに、花き農家の技術力向上に努めてまいります。



【ほ場確認の様子】

## 7) 花き技術員会が県外ラナンキュラス先進地視察と市場調査を実施

26日に、西諸県と中部地区の花き技術員等7名が参加して、長野県松本市にある法人を視察しました。視察した法人はラナンキュラスの生産量が約280万本と、国内有数の生産量を誇ります。同法人はラナンキュラス以外にも、トルコギキョウやカラー、キンギョソウなど様々な花きを生産していますが、花の持つ能力を最大限引き出せるように、こまめな温度・水管理を行っていました。

また、翌27日には大田市場にて、県内外7産地のラナンキュラスの出荷物について、他産地と県内産品の品質や規格等を調査・比較しました。

今回の視察と調査結果で得たことを生産販売につなげていきたいと思っております。



【ほ場視察の様子】